

学生大使 実施報告書

氏名：井上実結

学部・学科（コース）・学年：農学部・食料生命環境学科（アグリサイエンスコース）・学部3年

派遣先大学：ガジヤマダ大学

派遣期間：2023年8月30日～2023年9月13日

1 日本語教室での活動内容

授業時間帯

10時～11時30分

13時30分～15時

基本的に実施した授業内容

- 自己紹介を一緒に考える（名前・趣味・好きなこと）
- 「あいうえお」の読み方・書き方
- 疑問文の作り方（5w1h）
- よく使う名詞・動詞を教える
- 習字で漢字に触れる（日本の名前を作成・好きな漢字を書く）
- 切り絵を利用して日本文化に触れる

2 日本語教室以外での交流活動

- ▶お昼に授業で友達になった子とご飯に行く
- ▶カラオケ
- ▶宮殿に観光
- ▶海にキャンプ
- ▶マーケットでショッピング
- ▶ボロブドゥール寺院に観光
- ▶インドネシアの子には浴衣、日本人にはインドネシアの伝統的な衣装
- ▶互いに文化的衣装を体験

3 参加目標への達成度と努力した内容

参加目標としては異文化を知るということだったため、達成度としては高いものになった。インドネシアに行く前、私にはインドネシアの友達がいたため、どんな国なのかは聞いていて違いに驚くという事はあまりなかった。しかし、話で聞くのと実際に体験するのはやはり異なった。インドネ

【学生大使 実施報告書】

シアの文化・宗教・食事・国民性・生活基準・衛生環境すべての環境が日本と異なるものだった。インドネシアは複雑な国でいろんな文化が混ざり合っているという印象だ。いろんな宗教があり、たくさんの国から来た食文化。「なんでこうなった」と考えれば考えるほど複雑な国だということに気づかされる。インドネシアという国を知ることが面白かったため努力はたいしてしていないが、いろんな UGM の友達に疑問に思ったことは質問し、現地の人ができるような生活スタイルを体験してみたり、疑問を持ち質問をして実際に自分で try してみるということをした。特に宗教については日本と全く違うため、いろんな話を聞いた。インドネシアの 7 割を占めるムスリムの方々、日本では少数派だったが圧倒的多数派になったときどのような感じなのか体感することが出来た。生活の身近なところにお祈りするところがあり、自分の身体を清潔に保つためのシャワールームがトイレに備え付けられている。朝にはお祈りの声がいろんなところから聞こえ、普段人がたくさんいる食堂はお祈り中は人が少なくなる。ここまで宗教が生活の一部になってくるとインドネシアの人にとってムスリムであることは普通なのだ。なぜムスリムがこんなに多いのか疑問に思っていたが現地に行ってみてわかったことがたくさんあった。知れば知るほどインドネシアは面白い。参加目標は達成したが、これからもイスラムの事をさらに知っていく努力をしていきたい。

4 プログラムに参加した感想

2 週間大変短いものを感じた。しかし、毎日が充実していて満足もしていたと感じる。

毎回の授業で UGM の学生はすごく楽しそうに日本語を学ぼうとしていることが感じられた。UGM の学生の前向きな姿勢にこたえようと、自分なりに試行錯誤をし、どうしたら楽しく日本語を勉強できて、また来たいと思ってくれるのか考えていた。毎日来てくれていた子は、最初参加したときの表情とは見違えるほど最後には活き活きと日本語を勉強していて周りとも溶け込んでいた。これは、学びたい意欲のある UGM 学生の気持ちがあり、さらに、その気持ちにこたえようと山形大学生が毎日試行錯誤していたからではないか。

日本の大学に進学したい、アニメが好き、文化が好きなど様々な理由で授業に参加してくれた UGM の学生と一緒に日本語を勉強することは大変刺激的だった。彼らの日本語を学ぶ第一歩の手助けができたことを願う。そして、彼らが本格的に日本に旅行に来る・進学するといったときにきちんとサポートしていきたい。

反省点としては、この日本語の仲間が UGM の学生にとっては満足できるものだったのか疑問が残る。計 15 回の授業。正直少ないという意見が多くあった。本気で学びたい人にとっては十分ではない時間だった。そして、授業形態が決まっていなかったため最初の授業や一日の授業の始まりがスムーズにしていなかった点が心残りである。その分帰国後も個人的に連絡を取れる人とは連絡を取り語学仲間として関係を継続していきたいと感じた。

帰国してから振り返って思う事としては、学生時代にこうやって他大学生と交流を広げていくことは重要だという事だ。日本の山形大学〇〇学部の中のコミュニティーというのは大変限られている。さらなるつながりを広げ、色んな大学生がいて、色んな志を持っている人がいるという事を知るべきなのではないだろうか。まずは他の日本の大学生との交流を持ち、さらに世界中の学生との交流が広がるコミュニティーに属する。このことがどれだけ素晴らしいことなのかを体感することが出来た。狭い世界の中で物事を判断するよりも色んな考え方・生き方・将来の見通しがあると

【学生大使 実施報告書】

いうことを知り行動することが大切だということを改めて感じた派遣だった。一緒に行った山形大学生と出会えたこともこの派遣の中で大きな意味である。生活を共にする中で徐々に仲が良くなっていき、いまでは近くに住む心強い仲間となった。このように、何か一つ行動すると素晴らしいものが得られるということを身に染みて感じる。この経験はこれからの私の挑戦の糧になる。そして、困ったときにサポートする・してもらえる、かけがえのない仲間を得ることができた素晴らしい挑戦だった。

5 今回の経験を踏まえた今後の展望

たくさんの刺激を ugm の学生・一緒に行った山形大学生からもらった。これからの挑戦へのハードルが低くなり、失敗しても私には今回の派遣で出来た仲間がいる。そして、海外にはサポートしてくれるインドネシアの友達がいるという事が更なる挑戦の後押しになるだろう。ずっと海外に住みたい・海外の大学で勉強をしたいという夢があった。そのハードルが低くなった今たくさんの挑戦を試してみたい。大学の研究は海外と日本の比較をテーマにした卒論を書いてみたい。そして、できることなら海外の大学への院進学をしたいと考えている。挑戦の先には、必ず得られるものがたくさんあることが今回の派遣で分かったため、興味のあることには怖気づいてしまうことなく挑戦を繰り返していきたい。



フェアウェルパーティー

【学生大使 実施報告書】



食事のひと時



日本語教室